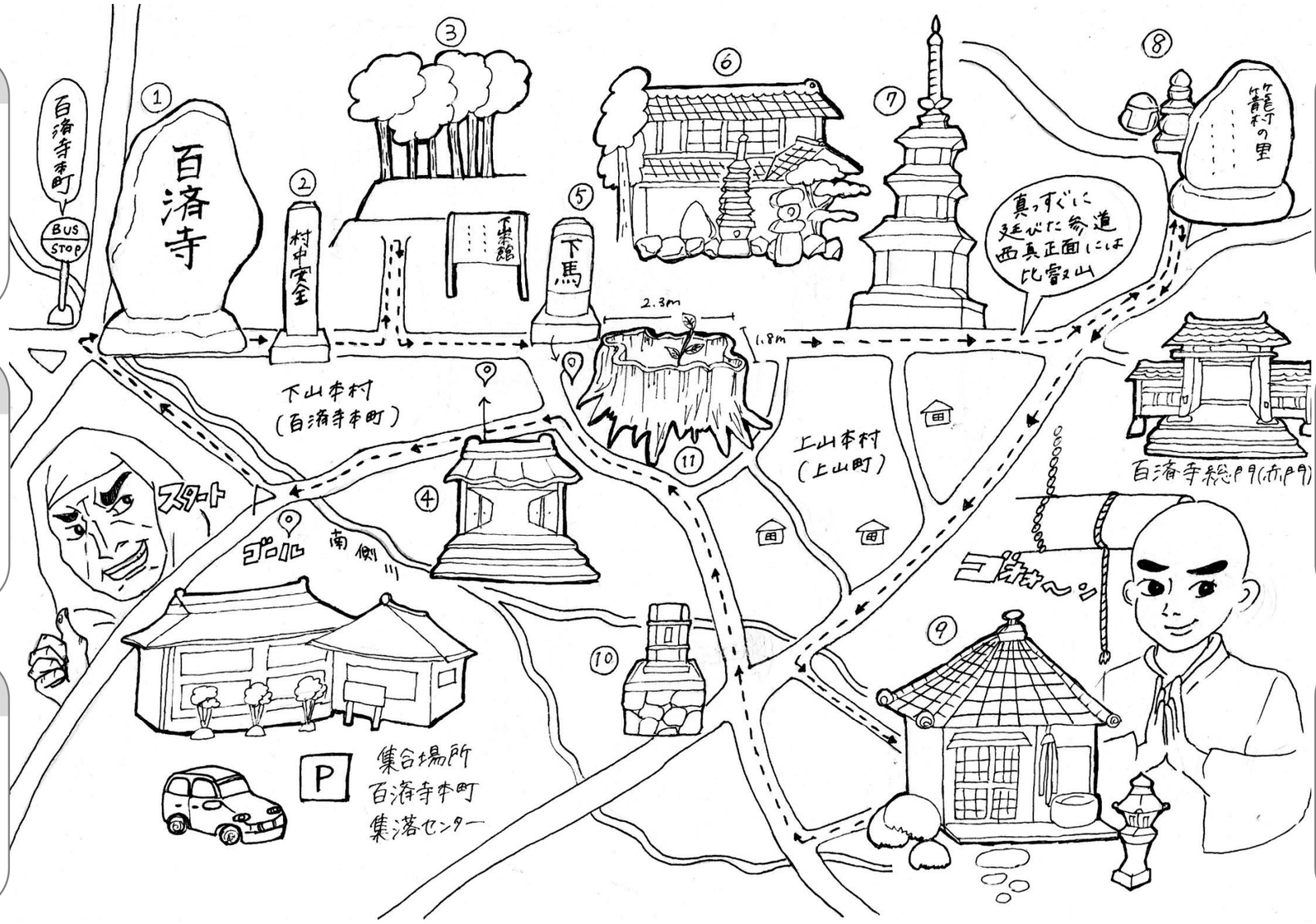
湖東三山 百済寺と歩んだ集落群 百済寺郷

― 垣間見る　寺と暮らした一千有余年の歴史 ―
上山本村・下山本村の巻

聖徳太子創建と伝わる百済寺は、中世、「東の叡山」とも称されるほど隆盛を極めました。その繁栄の一端を支えたのが、百済寺郷といわれる大萩・上山本・下山本・北小屋・北坂本の五ヶ村です。明治から平成までは、百済寺甲・乙・丙・丁・戊と呼ばれていました。今も伝わる伝統行事や文化遺産から、百済寺とともにあった百済寺郷の人々の暮らしや歴史を紹介します。



①寺領の西端「一水口」

ここから寺領の東端までは約７ｋｍです。東西は約３ｋｍ、約21㎢が百済寺の寺領です。これの根拠となっているのは、永正元年(1504)伊庭貞隆が百済寺の四方の境を証明した書類です。
中世から安堵されていた広大な寺領が生み出す森林資源などが、百済寺の繁栄を支えました。

②惣祈祷「村中安全」碑

百済寺本町には、信長の焼き討ちを契機に始まったと伝えられる「惣祈祷」という伝統行事があります。毎年１月、百済寺のご住職を招き、『仁王般若経』という長いお経をあげて集落内の安全を祈っていただきます。祈祷されたお札と榧をここに納め、悪事・悪霊が集落内に入いることを防ぎます。

③百済寺下山本館遺跡

平成22年、竹藪の伐採作業で新しく発見された遺跡です。高さ1m巾4mの土塁と浅く窪んだ堀跡が残っています。
百済寺の玄関口の施設かもしれません。また、江戸時代の史料に「…公儀御代官増島佐内ト云人居住セシ由。猶今、其宅跡残存スト云」とあり、この人物の屋敷跡かもしれません。

④彦根藩主宿泊「本陣」跡

彦根藩井伊の殿さまが、領内を視察した時に宿泊された屋敷跡です。当時の建物はありませんが、参道に接する石段や石垣から当時をしのぶことができます。
ちなみに、井伊直弼がここに宿泊したのは、嘉永５年(1852)３月14日の夜です。地元では、ここを「本陣」と呼んでいます。

⑤「下馬」碑

参詣先に敬意を表すため、ある地点で馬や輿から降りるのが慣例でした。馬から降りる地点を示すのが、下馬碑です。大きな石材が、百済寺の往時の勢いを物語っているようです。
さらに上方、赤門付近には小野道風筆と伝わる「下乗」碑もありました。今は本坊喜見院庭園入口にあります。

⑥阿弥陀堂

江戸時代、浄土宗東光寺の末寺でした。
中には西国33箇所の観音様が祀られ、ここにお参りすれば33箇所お参りしたと同じ御利益があるといいます。
発掘調査で、江戸時代の遺構面の下から、戦国時代の井戸跡などが出てきました。百済寺寺領内の具体的なようすを知る手掛かりとして重要です。

⑦引接寺「来迎浄土」

江戸時代、百済寺の末寺でした。
国史跡「百済寺境内地」には、今もなお多くの坊跡や石仏などが眠っています。このうち、引接寺関係地にあった石造物を集めて供養したのが来迎浄土です。毎年８月、4000体を越える石造物に献灯される万灯祭は、絶好の被写体となっています。

⑧まぼろしの集落「籠村」

かつて、竹細工を生業とする人々の集落籠村がありました。江戸時代前期には、庄屋もいる村でしたが、幕末には僅か１軒となりました。さらに明治６年には、上山本村に吸収されました。
いま籠村の跡地には、ここにあった石造物が整然と並べられ供養されています。籠村の存在を伝える記念碑です。

⑨快楽院(けらくいん)

江戸時代の史料ある「永源寺末寺　念仏寺」につながるお堂です。阿弥陀堂と同じく、百済寺と関連する施設が前身となっていると考えられます。
境内には、お稲荷さんやお地蔵さんも祀られています。お地蔵さんは木之本から勧請したと伝わり、眼病が治るとの言い伝えがあります。

⑩惣祈祷石碑

上山町にも伝統行事「惣祈祷」があります。この石碑は本来、津島神社のお札用でしたが、今は惣祈祷で祈祷していただいたお札を納めています。
もともと惣祈祷のお札は、ここにあった勧請縄とともに、村内安全を見守っていました。しかし、勧請縄を吊るす松の木が枯れ、今のようになりました。

⑪日吉神社の大切株

延暦寺に日吉大社があるように、百済寺には日吉神社があります。神輿蔵には、十禅師・八王子・客人三社の神輿が入っています。地元では、十禅師社の神輿を「寺の神輿」といっています。
境内の切株は、ご神木であった檜の大木の切株です。みんな、２世の幼木が大木となることを祈っています。

百済寺本町一炊庵　謹製